

保存科学研究集会の開催

保存科学研究集会は、文化財の保存にかかわる全国の文化財担当者が、保存科学に関する様々な問題について情報共有と意見交換をする場として毎年開催されています。昨年度は「文化財調査におけるイメージング技術の諸問題」と題して2017年3月に平城宮跡資料館において開催し、計115人の参加がありました。

文化財におけるイメージング技術は、錆に覆われた遺物の内部を可視化するX線ラジオグラフィや、肉眼では確認できない墨書を可視化する赤外線リフレクトグラフィ等の技術に始まり、近年では化学分析の結果を2次元的に表示するマッピング技術や膨大な点群データを用いて3次元イメージを構成する技術、文化財の内部構造を3次元的に把握するX線CT等の技術が急速に発展しています。これらのイメージング技術が文化財調査において非常に効力を発揮することはもちろんですが、いっぽうで技術の進歩にともない、それらの機器がブラックボックスとなってしまうことも懸念されます。

そこで、今回の研究集会では保存科学や考古学の研究者による最新の調査の実例だけではなく、機器の開発に携わっておられる技術者の方にも講演いただき、イメージング技術の原理について解説いただくとともに、現行の機器でできること、そして現行機器の限界、問題点についてもご報告いただきました。講演後の総合討議では、計測された画像データの保管と共有化等、その管理と運用方法について新たな問題提起もなされ、学会等が主導してその指針を示すこと等が求められました。

なお、保存科学研究集会で報告された6件の研究報告の概要は、『埋蔵文化財ニュース167号』にてご覧いただけますので、是非ご参照ください。

(埋蔵文化財センター 柳田 明進)



保存科学研究集会の様子